

劇場を支える 若き演劇人たち

演劇コンクールなどをきっかけに、当劇場の事業にスタッフとして積極的に参加している演劇活動者がいます。今回は、下記の方々に感想をうかがいました！

●THEATRE MOMENTS・佐川大輔さん・中原くれあさん →「彼女の素肌」演出部、演劇アウトリーチ講師

劇場事業に参加したことで、私たちは多くの「仙川の人」と触れ合うことが出来ました。劇場のスタッフさんは勿論ですが、地域の一般の方々と交流できたことは、とても新鮮なことでした。「劇場に関わる人々」と交流することで、一部の「演劇好き」という人以外にも、伝える意義を考えたからです。そして、改めて、劇場とは「人が集う場所なのだ。」と感じ、今後の活動に生かしていこうと思っています。

●第0楽章・柏木俊彦さん →「彼女の素肌」演出部、「青い鳥」構成・共同演出、「わが町、せんがわ」演出補ほか

せんがわ劇場では、柿落し公演「時の物置」含め、劇場主催公演3作品に俳優で参加しました。2013年度は、演劇コンクールをきっかけに、「彼女の素肌」演出部・「青い鳥」共同演出・「わが町、せんがわ」演出補・演劇アウトリーチ講師と、また違った立ち位置で劇場企画に参加をしました。すると、劇場が今までとは違うカタチで現出しました。なかでも、音楽事業連携の「青い鳥」に携わり、その上で他地域での活動経験から考察すると、せんがわ劇場は、演劇・音楽事業の主催制作機能を兼ね備えた日本では稀有な劇場！という点に気が付きました。これは発見！！劇場の活動が地域の愛によって広く生まれ、更なる発展、飛躍となることを心より期待しております。

●劇団印象-indian elephant-・鈴木アツトさん →「彼女の素肌」演出部、「青い鳥」上演台本・共同演出

せんがわ劇場の、「親と子のクリスマス・メルヘン(※)」は、劇場の事業の中でも、特に関わってみたかった公演でした。なぜなら、そこには様々な可能性があるからです。例えば、「演劇を初めて見る子どもたちのための演劇」として何ができるのか？ 「一緒に見るお父さんのための演劇」として何ができるのか？ 仙川のクリスマスの風物詩を目指すだけではなく、演劇作品を通して親子の新しいコミュニケーションを生み出す存在になっていけば、素晴らしいなあと思っています。 ※せんがわ劇場の「年末の風物詩」として親しまれている演劇事業。昨年は「青い鳥」を上演。

ワークショップ

せんがわ劇場では、毎年さまざまなワークショップを行っていますが、今年が目玉は「演劇をまるごとゼンブ自分たちでつくろう！」というワークショップです。その名の通り、スタッフも出演者もそれぞれのコースに分かれて学び、参加者の力で実際に発表公演を行ってしまおう！というもの。あなたが作ったポスターが街を飾り、みんなで考えた照明や音楽を、プロと同じ機材で操作します。もちろん舞台上立つのもワークショップの仲間。みなさまの参加をお待ちしています！ **参加者募集詳細は後日発表！ お楽しみに。**

演劇コンクール

第5回を迎える演劇コンクールでは、実力があり、かつ、せんがわ劇場と一緒に活動しながらさらに伸びていこうとする劇団を選出します。グランプリを獲得した劇団は、翌3月に受賞公演をしていただくとともに、劇場からいろいろなお仕事を依頼し、活躍の場を提供したいと考えています。予選を勝ち抜いた6劇団のなかからグランプリに選ばれるのは、そして、あなたが一番おもしろいと思う劇団はどこでしょうか。上演時間40分の1本勝負。夏の2日間、演劇ざんまいしてみませんか？

市民審査員募集中！

編集後記

やっと春です。四月は気候も暖かくなり、たくさんのお花も咲き出します。それにつられて何だか新しい自分になった気がします。121プレス第五号は、平成二十五年度の総括と二十六年度の企画のご紹介を中心におおくりしました。その中に興味があった企画はありましたでしょうか？ 気になった時がチャンスです。ぜひ一度お問い合わせください。きっと新しい出会いが待っていますよ。(す)



せんがわ劇場応援マガジン 121press 第5号

平成26年4月15日発行

編集 調布市せんがわ劇場市民サポーター

発行 調布市せんがわ劇場

〒182-0002 東京都調布市仙川町1-21-5

TEL 03-3300-0611 FAX 03-3300-0614

HP <http://www.sengawa-gekijo.jp/>